

累積5年生存率について

1. 集計対象

◎生存率集計における集計の対象は、2010年～2018年に診断された症例で次のi～IVを満たす症例を集計対象とする

i. 症例区分

標準登録様式2006年版（2015年症例まで）

- 2：診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例
- 3：他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例

標準登録様式2016年版（2016年症例～）

- 20：自施設診断・自施設初回治療開始
- 30：他施設診断・自施設初回治療開始

ii. 悪性新生物＜腫瘍＞

iii. 部位コード：C16 胃・C18-C20 大腸(結腸/直腸)・C34 肺(非小細胞肺がんのみ)・C50 乳房

IV. 生存状況把握割合

集計対象症例の生存状況把握割合が90%以上

$$\text{生存状況把握割合} = (1 - \text{打ち切り数} / \text{集計対象数}) \times 100$$

※打ち切り数：起算日から5年経過した時点で生死状況が不明である場合、「打ち切り」として計算

2. 集計方法

①集計対象症例の選定

- ・院内がん登録支援ソフト「Hos-CanR Next」より該当する症例を抽出

②集計項目の定義

・UICC TNM分類総合ステージ

術後病理学的ステージがある場合(不明は除く)は、術後病理学的ステージを、術後病理学的ステージがない場合は治療前ステージを用いてUICC TNM分類総合ステージとして集計

*上皮内がん、ステージ0は除外する

・追跡期間

起算日(診断日)から生存最終確認日もしくは死亡までの日数

$$\text{追跡期間(日)} = \text{追跡終了日} - \text{起算日} + 1$$

追跡終了日とは、予後調査結果が死亡であり死亡日があれば死亡日、生存の場合は生存最終確認日とする

③算出方法

- ・Kaplan-Meier法により実測生存率を算出
- ・国立がん研究センターにおいて作成されたコホート生存率表を用いEderer II法により相対生存率を算出

3. その他

■実測生存率

死因に関係なく、すべての死亡を計算に含めた生存率。がん以外の死因による死亡も含まれる。

■相対生存率

がんなどの特定の病気で亡くなった割合を評価するため、がん患者の実測生存率を、同年齢・同性の日本人一般集団の生存率(期待生存率)で割って算出する指標。期待生存率より実測生存率が高い場合は100%を超えることがある

■生存状況把握割合

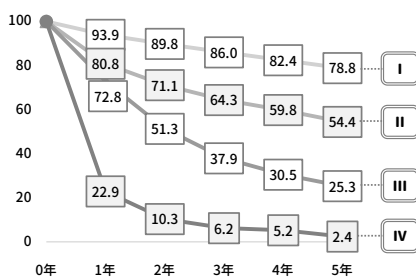
生存率を推定するためには、がんと診断されてから3年、5年後の患者さんの生死状況を把握する必要がある。この生死状況が確認できている割合が生存状況把握割合。一般的に、生存状況把握割合が低いと、生存率は本当の値よりも高く計算される。

5年生存率集計

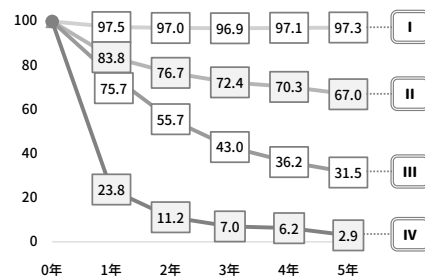
胃【C16】

	対象数	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合
全体	1,569	792	77	95.1
I期	1,055	390	53	95.0
II期	138	73	7	94.9
III期	147	110	11	92.5
IV期	229	219	6	97.4

実測生存率



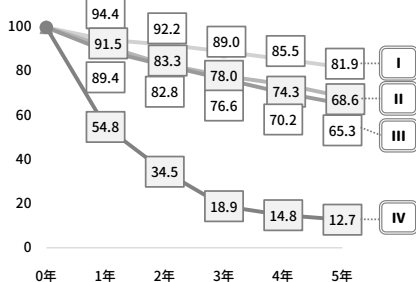
相対生存率



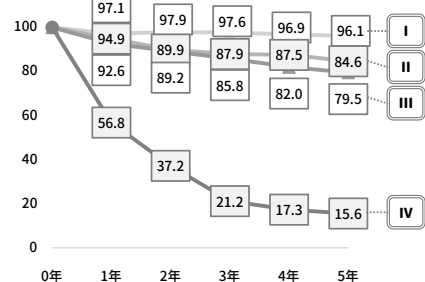
大腸【C18・C19・C20】

	対象数	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合
全体	1,106	520	65	94.1
I期	333	89	27	91.9
II期	273	121	8	97.1
III期	290	123	23	92.1
IV期	210	187	7	96.7

実測生存率



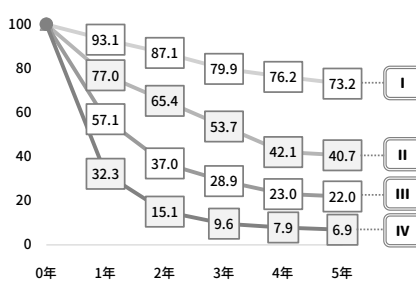
相対生存率



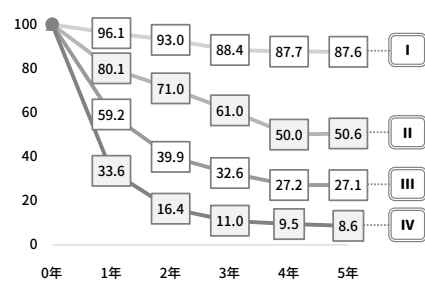
肺【C34】 非小細胞肺癌のみ

	対象数	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合
全体	942	648	44	95.3
I期	338	142	11	96.7
II期	73	47	4	94.5
III期	197	160	7	96.4
IV期	334	299	22	93.4

実測生存率



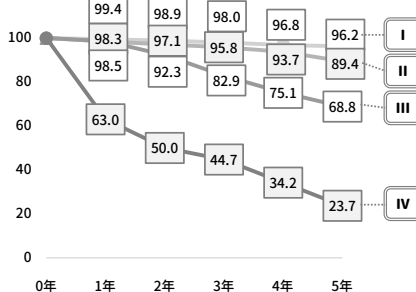
相対生存率



乳房【C50】

	対象数	死亡数	打ち切り数	生存状況把握割合
全体	742	131	68	90.8
I期	381	34	43	88.7
II期	250	37	17	93.2
III期	70	25	6	91.4
IV期	41	35	2	95.1

実測生存率



相対生存率

